大分合同新聞

ワークシート　　年　　組　名前

新型コロナウイルスの影響が拡大して以降、大分県内はインフルエンザや感染性胃腸炎などの感染症になった患者が例年に比べて少なくなっています。

他の感染症患者減

インフル例年の6割・胃腸炎 過去5年で最少

県内

新型コロナウイルスの影響が拡大して以降、大分県内はインフルエンザや感染性胃腸炎などの感染症になった患者が例年に比べて少なくなっている。県は「コロナ対策で手洗いなどが徹底されたことが関連しているのではないか」と推測。夏場に流行する他の感染症を防ぐ効果も見込まれ、新たな生活様式として予防策を習慣化してほしいと呼び掛けている。

新型コロナ

今季のインフルは患者数が推計約6万4千人で、例年の6割程度だった。警報が解除されたのは2月12日（前年は3月6日）。それぞれ過去10年で最も少なく、早かった。

要因について、県健康づくり支援課は「過去2年の流行が大きく、多くの人に免疫ができていたのでは」とみる。加えて、奏功したと考えているのが新型コロナ対策だ。インフルが例年ピークとなる1、2月は国内でコロナ感染者が増え始めた時季と重なり、「せきエチケットなどに気を付ける人が増えたことも良かったのだろう」という。

ノロウイルスなどによる感染性胃腸炎の発生も、今季は少なくとも過去5年で最少になっている。1月までは例年と同程度で推移していた感染者数が2月以降は下回る水準が続く。

マスク姿が目立つ大分市中心部。手洗いやマスク着用といった新型コロナウイルス対策は、他の感染症を防ぐ効果も見込まれる＝7日、撮影・鎌手美和

マスク、手洗い 徹底が効果か

国立感染症研究所のデータによると、乳幼児がかかりやすい突発性発疹は1月以降、例年の半数程度で推移。「県内も同じように減っているとみられる」（県）

新型コロナを予防する手洗いや消毒、マスクの着用、発熱時の外出自粛といった対策には、他の感染症と共通しているものがある。

これまでの受診状況について、県小児科医会の安藤昭和会長（60）＝あんどう小児科院長・大分市明野東＝は「インフルは3月の休校措置で一気に止まった印象。コロナの影響で不要不急の受診を避けたのか、感染症全体の受診者数が例年に比べ少なかった」と説明する。

今後は手足口病・ヘルパンギーナ、プール熱といった夏風邪が増える時季となる。「コロナ対策は夏風邪を含む多くの感染症の予防に期待ができる。身に付けた予防習慣をぜひ継続してほしい」と話している。

（池田美香）

新型コロナ　大分県の状況

	7日	累計	
感染確認者数	0	60	死亡 1 退院 58
PCR検査数	15	4217	

※県発表、単位は人

2020年6月8日付　大分合同新聞1面

①感染症患者が減ったのはなぜ？　県はどう推測していますか？

「コロナ対策で手洗いなどが徹底されたことが関連しているのではないか」

②今季のインフル患者数は何人？　例年に比べてどれくらい減りましたか？

推計約６万４千人　例年の６割程度に減った

③インフル患者が減った要因を２つ挙げてください。

・過去２年の流行が大きく、多くの人に免疫ができたと思われるから

・せきエチケットなどに気を付ける人が増えたから

④あなたが「新たな生活様式」として、気を付けていることは何ですか？

手洗いや消毒、マスクの着用、発熱時の外出自粛など、生活するうえで最近気を付けていることを書いてください。